

「あなたのためなら、死んでもいい」

ルカによる福音書 10章 29～37節

聖学院中学校・高等学校チャプレン 百武 真由美

皆さんよくご存知の、「善いサマリア人」のたとえ話の一部をお読みしました。これまでも多くの先生方が礼拝で取り上げてくださいましたし、授業でも扱いましたので、このお話のあらまはよくご存知でしょう。私は個人的には、数年前にこの箇所から小瀬先生がお話ししてくださった「毛羽部バーガー」の話がとても印象に残っています。

聖書にはかかれていませんが、このお話で追いはぎに襲われた「ある人」は、ユダヤ人でした。サマリア人とユダヤ人の立場については、すでに知っておられる方ばかりだとは思いますが、もう一度確認をしておきたいと思います。ユダヤ人とサマリア人は当時、いわゆる「犬猿の仲」と呼ばれる間柄でした。ユダヤ人とサマリア人はもともと同じ、ユダヤ人だった。しかし当時の大きな国々の戦争と政治の都合に巻き込まれ、ユダヤ人の一部がアッシリアと呼ばれる人々と国際結婚をして生まれたのがサマリア人でした。一方、ユダヤ人は自分たちのことを「神さまに選ばれた特別な民族」と思っていた。だからユダヤ人たちは、国際結婚をしたサマリア人のことを到底受け容れようとはしなかった。そして民族同士の対立に向かってしまったのが、ユダヤ人とサマリア人の関係だったというわけです。ですから、このたとえ話においてサマリア人がユダヤ人を助けるなんて、普通では考えられないようなことでした。サマリア人とユダヤ人は口も利かない、そもそも同じ空間にいることすら嫌がるというのが当時の「常識」であったからです。イエスさまはそのことを知った上で、この「善いサマリア人」のたとえ話を語られました。そしてこのたとえ話から、「あなたの隣人とは誰か？」という問いに答えようとしたのです。

キリスト教の学校に通っていると、「隣人愛」という言葉を結構な頻度で耳にします。「隣人愛」となりびとを自分自身のように愛する、ということは学校の建学の精神や標語になっているときもあるし、仲のよい親しい人だけでなく、そうでない人にも愛をもって接しよう、と結論付けられることが多いと思います。わたし自身もそう教えられて、学んで来ました。

それにしても、サマリア人は何といい人なのだろう、と思わされます。サマリア人みたいにはできない、そんな気分にもなります。どうしてサマリア人は見ず知らずの、敵対するユダヤ人に、こんなに親切にできたのでしょうか。

この箇所でもとても気になる言葉があります。「ある人」が道端に倒れているのを見かけたときに、サマリア人がどう感じたか、を表現するのに、33節「憐れに思って」という言葉が使われています。「憐れむ」という言葉を日本語の辞書で引くと、こうあります。「かわいそうにおもう。気の毒に思う」この意味だけを聞くと、何か課題を抱える人に対して、そうでない人が「大変だなあ」「かわいそうだなあ」と感じる、という印象を受けます。しかし聖書で使われている言葉のニュアンスは、だいぶ違うのです。「憐れむ」に使われているのは「スプラクリゾマイ」という言葉ですが、これはもとを正せば「おなかの腸が

焼ける」という意味です。「断腸の思い」という言葉がありますが、相手を慮る(おもんばかり)、おなかの具合が悪くなり、腸が焼け切れてしまうくらいに、いてもたってもいられないという意味です。だからサマリア人は行動に出た。あの人の応急処置をして、宿屋に連れて行くために自分がロバから降りて歩き、宿屋の料金を自分のお金で払った。これが聖書の言うところの隣人愛であり、憐れむということ。

しかし聖書全体をよく見てみると、憐れむという言葉は、誰かが他の誰かのために使われる場面よりもずっと多く、あの方が使っています。神さまです。神さまが私たちを憐れむ、という表現がとてまたたくさんあるのです。飢えているときに食べ物と水を与え、住む場所を用意し、友達を備え、迷う道を先んじて進んでくださる神さまは、腸がよじれてしまうくらいに、おなかが痛くなってしまいうくらいに私たちのことを深く深く心配してくださっています。だから、恵みをもって私たちを養ってくださるのです。

記念祭にあたり、聖学院の歴史を振り返ってみると、同じ神さまの憐れみの足跡があちこちに散見されます。開校当時の自体的状況は厳しかったのに、多くの課題をかいくぐるように、聖学院は開校されました。戦争のとき、この駒込は空襲を受けたのに、聖学院の校舎は戦火を免れました。腸(はらわた)を痛めてまで私たちを愛してくださった神さまの憐れみをこの時期、改めて覚えたいと思います。そして今日、このわたしが、その憐れみの中で生かされていることを、忘れないでいたいと思います。

祈りをささげます。

神さま、腸を痛めてまで私たちを憐れんでくださるあなたのご愛を、感謝いたします。愛されるにふさわしく、私たちが友達を、家族を、仲間を、同じ愛を持って愛することができますように。まず、愛したいと願うことができますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2017年10月28日 聖学院大学 全学礼拝